

書くということと私 — シリーズ 23

書くことにおける自力と他力

講師：小池 昌代 氏（詩人）



子供のころから、詩に惹かれてきました。大人になり、書くことを仕事と決めてからは、次第に長いものを書くようになりました。エッセイや書評、さらには小説。小説でも、短編から長編へ。それぞれの分野には、それぞれの難しさや面白さがあります。書く行為にジャンルが働きかける力とはどういうものか。それらはどう違い、どこが同じなのか。書くことは孤独な行為だと言われますが、そこに他者の入る余地はないのでしょうか。書くことの豊かさを願って、共に考えるひとときを持ちたいと思っています。

日 時：2015 年 6 月 9 日 [火] 16:20-17:50

会 場：関西大学千里山キャンパス第 1 学舎 1 号館 6 階
ライティングラボ2

※津田塾大学で開催される講演会を TV 中継いたします。

事前申込不要・参加費無料

小池昌代（こいけ まさよ）プロフィール：

1959 年生まれ。津田塾大学国際関係学科卒業。法律出版・判例タイムズ社編集部にて 10 年以上勤務。その後退職。第一詩集『水の町から歩きだして』以降、詩と小説を並行して書き続ける。主な著作に、詩集『もっとも官能的な部屋』『コルカタ』、短篇集『感光生活』『タタド』『自虐蒲団』『悪事』、長編『弦と響』『転生回遊女』『たまもの』、詩のアンソロジー『通勤電車でおむ詩集』『おめでとう』やエッセイ集『詩についての小さなスケッチ』など。最新刊は、古今東西の小説 120 冊をめぐる小説ガイド『小説への誘い』（中村邦生、芳川泰久との共著）。

【お問い合わせ】

関西大学教育開発支援センター事務局
TEL: 06-6368-1111 (内線 3223, 3812)
URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/renkei.jp>

【主催】

津田塾大学ライティングセンター

【共催】

関西大学ライティングラボ